

「3年生にプラナリアを配る(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今から約2年前(2015年3月)に、当時の卒業生から、プラナリアをもらった。たった3匹だった。自分で飼うのは初めてだったので、いろいろと試しながら飼育方法を研究するのが楽しかった。



「2年前のプラナリア」 たった3匹しかいなかった

まず大切だと思ったのが飼育に使う水である。「くみ置き水」「精製水」「富士の天然水」「ぐんまちゃん天然水」など、いろいろ試したが、結論としては、普通の水道水が適していた。カルキ抜きやくみ置きが必要はまったくないのだ。鈍感なのだろうか？



「豚レバーに群がるプラナリア」とにかくよく食べる

次にエサである。プラナリアをくれた6年生は「鶏レバー」が一番良いと教えてくれたので、最初は鶏レ

バーばかり与えていた。その後、「鶏胸肉」「鶏ささみ肉」「豚切り落とし」「ひき肉」「ホタテ貝柱」「アサリ」など、さまざま試してみたが、「豚レバー」が最もエサ付きがよく、よく増殖することがわかった。



「分裂直後のプラナリア」 分裂後数日で、「頭側」からは尾が生え、「尾側」には頭部が形成される。

プラナリアはたちまち100倍の300匹以上になった。附属中学校、他の高校の先生、博物館の先生など、何度も「分家」をして、何百匹も旅立っていった。しかし残ったプラナリアが、またもや分裂を繰り返し、この冬についに400匹以上になった。これで3年生全員に3匹ずつ配っても、まだ残る。よし、配るぞ！



「大繁栄を遂げたプラナリア」推定450匹である。